# 患者の皆様へ

2026 年 10 月 30 日

呼吸器外科

現在、呼吸器外科では、「胸部疾患に対する気管支鏡検査の有効性に関する前向き臨床研究」に関する研究を行っています。今後の治療に役立てることを目的に、この研究では肺癌等胸部病変を有する患者様の診療情報などを利用させて頂きます。診療情報などがこの研究で何のために、どのように使われているのかについて詳しく知りたい方は、下記の窓口にご連絡ください。

1. **研究課題名**:胸部疾患に対する気管支鏡検査の有効性に関する前向き臨床研究

2. **研究の意義・目的**: 気管支鏡における胸部病変診断の詳細な検討を行うことで診断のための適切なデバイスの選択およびを治療方針決定後の適正評価し、その有用性を検討します。

3. **研究の方法**: 千葉大学医学部附属病院にて気管支鏡検査を施行した患者様の臨床データを解析・検討します。また本研究のデータをもとに、次項に示す通りの副研究を行う予定です。

4. **対象期間**: 2017 年 1 月から 2028 年 3 月までの間において、胸部病変に対する気管支鏡検査を受けられた患者様が対象となります。

5. **個人情報の取り扱い**: 患者様の氏名や情報が特定されることのないように、匿名化してデータの解析・検討を行います。研究成果の発表にあたっては、患者さんの氏名などは一切公表しないこととします。

6. **研究等の実施場所等**: 解析およびデータ保存は千葉大学医学部附属病院呼吸器外科臨床研究室内の鍵のかかる部屋で厳重に保管、管理します。

7. **研究に診療情報などを利用して欲しくない場合について**:ご協力頂けない場合には、原則として結果の公開前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

文部科学省、厚生労働省が定める「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づいて掲示を行っています。

**研究実施機関　　：　千葉大学医学部附属病院呼吸器外科**

**本件のお問合せ先　：　千葉大学医学部附属病院呼吸器外科**

**教授　鈴木秀海**

**助教　稲毛輝長**

**043(222)7171　内線　6762　呼吸器外科外来受付**

2026 年 10 月 30 日 追記

## 現在予定されている本研究をもとにした副研究一覧

・EBUS-TBNA を用いた肺癌リンパ節転移診断における AI の有用性

・当院における若年肺癌、治療とその予後の解析

・気管・気管支ステントを必要とする患者の臨床的特徴

・CP−EBUS の食道癌気管気管支浸潤評価への応用

・硬性鏡下シリコンステント留置症例の成績と予後

・肺移植後の気管支吻合部の IHb 評価と合併症の関係性

・単一の 22G 生検針を用いた、dual-scope によるリンパ節生検と末梢肺癌診断の報告

・軟性気管支鏡下摘出による気管支結石症の治療

・肺癌に対する重粒子線治療後の局所再発に対し、エラストグラフィ併用下細径コンベックス走査式 EBUS-TBNA が診断に有用であった 1 例

・気管支動脈肺動脈瘻塞栓術後に生じた遅発性塞栓コイル気道内迷入に対して軟性気管支鏡下摘出を施行した 1 例

・単回使用気管支鏡（aScope™5）を用いた中心型早期肺癌再発に対する光線力学的治療：症例報告